

会 議 記 録

会 議 名	令和3年度矢板市総合教育会議
開催日時	令和4年1月17日(月) 16:00~17:06
場 所	矢板市生涯学習館 研修室(1)
出席者	【構成員】 齋藤市長 教育委員会 村上教育長、池田教育長職務代理者、齋藤委員、宮本委員、岡委員 【出席依頼職員】 教育総務課 手塚課長補佐、曾田指導主事、井上指導主事 生涯学習課 高久課長、海瀬社会教育主事 国体・スポーツ局 山口局長 【事務局】 横塚副市長 総合政策課 高橋部長兼課長、小林課長補佐、松本主査
傍聴者	なし
報道関係者	下野新聞
会議の内容 開 会 (16:00) (進行:高橋総合政策部長) 1 開会 ▶ 高橋総合政策部長 教育委員の皆様におかれましては、教育委員会定例会に引き続きお時間をとっていただきまして、ありがとうございます。 ただいまから令和3年度矢板市総合教育会議を開会いたします。 2 あいさつ ▶ 高橋総合政策部長 はじめに、齋藤淳一郎矢板市長より、御挨拶を申し上げます。 ▶ 齋藤市長 それでは令和3年度の矢板市総合教育会議開催にあたりまして、一言御挨拶を申し上げます。	

教育委員の皆様におかれましては、教育委員会定例会に引き続き、本会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。

また委員の皆様におかれましては、日頃から本市における学校教育並びに生涯学習施策の推進にあたりまして、格別のご尽力いただいていることに対しまして、改めて厚く御礼を申し上げる次第でございます。

さて、本会議、総合教育会議でございますが、市長と市教育委員会が円滑に意思疎通を図り、本市教育の抱える課題や目指すべき姿等を共有しながら、教育行政を推進していくことを目的といたしまして、毎回テーマを設定した上で、平成27年度から開催をさせていただいている会議でございます。

本年度は、テーマを矢板市立小中学校適正規模・適正配置計画について、とさせていただきます。

矢板市立小中学校適正規模・適正配置計画でございますが、平成31年の3月になりますが、市教育委員会から市長に対しまして、建議、意見書の提出をいただき、その内容を基にいたしまして、昨年の9月に策定した計画でございます。

この計画の概要について申し上げますと、令和7年度までの第1期につきましては、令和4年4月に豊田小学校を東小学校に統合する。そして、来年の4月でございますが、令和5年4月に、川崎小学校のJR線西側を矢板小学校、そして東側を東小学校にそれぞれ統合をいたします。そして泉中学校につきましても、令和5年4月に矢板中学校に統合することを昨年度中に決定をさせていただきます。現在、統合の具体的な準備に着手しているところでございます。

本日は、この第1期の取組みについて、振り返らせていただくとともに、令和8年度からの第2期に位置付けがございます片岡地区における小学校適正配置等につきましても、委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴できればと考えております。

折からのコロナ禍のもとで、限られた時間の中ではございますが、何卒よろしく願い申し上げます。

どうぞよろしく願いをいたします。

▶ 高橋総合政策部長

続きまして、矢板市教育委員会村上教育長より御挨拶をいただきます。

▶ 村上教育長

本日は、矢板市総合教育会議を開催していただきましてありがとうございます。

この会議においては、本市の教育委員会の意見をお聞きいただき、先ほど市長からもありましたように、本市教育行政の推進を図るために、市長と教育委員会の意思疎通をさらに図るということを目的とする会議でありますので、こういう認識の中で、今日は会議に参加させていただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

本年度のテーマについては、先ほどありましたように、本市の小中学校適正規模・適正配置計画の進捗についてということでございまして、本市教育委員会としましては、矢板市立小中学校適正配置検討委員会という委員会を設けまして、その中から答申を受けて、市長に対して建議をいたしました。それ以来、本市の教育委員会の定例会において、常に話題となっている案件でございまして、教育委員会としては共通の方向ではありますけれども、個々の教育委員の教育の考え方、スタンスについては、それぞれのご経験や考え方をお持ちですので、そういう点では随意で発言をさせていただくような形になるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

▶ **高橋総合政策部長**

続きまして、議題に入る前に、本日の会議資料の確認をさせていただきます。次第、出席者名簿、席次表、議題の資料となります矢板市立小中学校適正規模・適正配置計画についてと総合教育会議設置要綱になりますのでご確認ください。

本会議につきましては、先ほど市長の方からも御挨拶がありましたけれども、感染症対策のため、1時間程度を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

3 議 題

▶ **高橋総合政策部長**

それでは、次第3の議題に入ります。

本会議は矢板市総合教育会議設置要綱第3条の規定によりまして、市長が招集することとなっておりますので、議事の進行を市長が務めることといたします。

それでは市長、よろしくお願いいたします。

▶ **齋藤市長**

それでは、お手元の次第に沿って議事を進めて参ります。

本日の議題でございしますが、矢板市立小中学校適正規模・適正配置計画についてです。まずは事務局の方から、これまでの取組み等について細川教育部長から説明をお願いしたいと思います。

▶ **細川教育部長**

矢板市小中学校適正規模・適正配置計画の資料に沿って、主なものを説明いたします。

まず1ページでございしますが、第1期の計画についてでございます。

(1)で豊田小学校は、令和4年4月に東小学校へ統合という予定でございます。今までの内容は記載のとおりでございますが、3月24日に閉校式を開催いたします。

(2)川崎小学校は、令和5年4月にJRの線路西側を矢板小学校、JRの線路東側を東小学校へ統合予定です。ただし、令和4年度の在籍児童は、矢板小学校への就学を希望して

おり、矢板小学校へ就学予定となっております。これまでの内容は記載のとおりでございます。

(3) 泉中学校は、令和5年4月に矢板中学校へ統合予定です。昨年度の泉小学校の卒業生は全員矢板中学校に入学しましたので、現在、泉中学生は2年生と3年生ということになってございます。あわせて今年度の今の泉小学校6年生に来年度の入学先の意向調査を実施した結果は、全員矢板中学校就学希望でありましたので、令和4年度の泉中学生は3年生だけという予定でございます。

2ページをご覧ください。

(4) 泉小学校はコミュニティ・スクール化により存続となりました。令和3年3月コミュニティ・スクール設立準備会から要望書提出があり、地元説明会にて学校存続を認めました。4月には会計年度任用職員のコーディネーターを配置しております。これ以後は後で説明いたします。

次に、第2期の計画でございます。

片岡地区の小中学校は、令和8年度から令和13年度に小学校の統合や、小中一貫教育体制の確立等を行うとなっております。

(1) 小学校の統合内容は、乙畑小学校が片岡小学校、安沢小学校のうち中地区は東小学校、安沢地区は片岡小学校へ統合する予定となっております。第2期の片岡地区の説明会といたしまして、令和2年10月に地元説明会、令和3年10月に保護者説明、同年12月に地元説明会を片岡公民館で開催しております。今年度の説明会では、小学校の統合時期は令和10年4月であり、スクールバスを運行すること、統合支援金を支給することなどを説明いたしました。

(2) 小中一貫教育体制の確立は、令和14年度までに体制を確立することを説明しております。

続きまして3ページと4ページですが、こちらは泉小学校学校運営協議会が作成した活動計画です。

泉小学校学校運営協議会設置要綱は5月1日施行となっております。4ページの下段のところがありますが、5月18日に第1回の学校運営協議会を開催して、委員13人へ委嘱状を交付いたしております。

5ページから7ページは4月から9月までの経過でございます。

学校での活動といたしましては、6ページの6月16日のふれあい活動が始まりとなっております。7ページの7月24日に地域説明会を開催しております。7月30日は先進校視察として、小山市の豊田北小学校に行っております。

8ページでございます。こちらは10月14日に開催した学校運営協議会の資料で、活動の方向性を協議しております。

1として学校教育活動・学校環境整備への協力、2といたしまして放課後クラブの実施、3といたしまして区長会へ提案、4といたしまして泉地区行事への参加、5といたしまして泉

地区他団体事業への協力となっております。

9 ページから 10 ページにつきましては、学校外活動の提案・内容となっております。

11 ページからは、本市立小中学校適正規模・適正配置計画の補足資料で、地元や保護者説明会の時の資料の一部でございます。11 ページ下段に文部科学省が作成した公立小中学校の統廃合に関する指針について、小学校は 1 学年 2 クラス以上、中学校は 1 学年 3 クラス以上が望ましいとしております。

12 ページでございます。本市の小中学校適正規模・適正配置計画の内容になっており、適正配置の基本方針として、過小規模校を最優先とし、次に小規模校の順に統合するとしております。下段は、総合時期を示したものです。

13 ページは、小中一貫教育制度についてでございます。施設形態が、施設一体型、隣接型、分離型がございます。下段は義務教育学校及び小中一貫型の要件が示してあります。

14 ページにつきましては小学校高学年への教科担任制導入でありまして、文部科学省は来年度から小学校で 5、6 年生の英語・算数・理科・体育について教科担任制を導入するとしておりますが、この実現のためには義務教育 9 年間を見通した体制の構築が必要という内容でございます。その下は、小中学校の児童・生徒数の推移でございます。

説明は以上です。

▶ 齋藤市長

ありがとうございました。細川教育部長から説明がございました。

一口に矢板市立小中学校適正規模・適正配置計画と申しましても、非常に内容が多岐にわたっております。またすでに方向付けがされた学校もあれば、もうしばらく先というような期日の設定がされている学校もございます。

そういった中で、議論が拡散しないように三つに分けて、委員の皆様方からご意見をお聞かせいただければと思います。

まず、第 1 部といたしまして、第 1 期計画のうち、すでに方向づけがされております豊田小学校の統合、川崎小学校の統合、そして泉中学校の統合について一括して、まず皆様のご意見をお聞かせいただければと思います。そしてその上で、第 2 期に位置付けがございまず片岡地区における小学校の統合、さらにその先には、小中一貫教育体制の確立というテーマもございまず、そちらについて、ご意見をお伺いできればと思います。

そして最後に、少し時間をかけさせていただいて、資料もいろいろ付けさせていただいておりますが、泉小学校のコミュニティ・スクール化については、学校教育だけではなくて、生涯学習施策にも大いに関係がございまず。

このことについては少し時間を取らせてさせていただいて、委員の皆様方からご意見をお聞かせいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、第 1 部といたしまして、第 1 期のうち、豊田小学校、川崎小学校、泉中学校について、委員の皆様方からご意見、またはご意見に限らず、疑問な点等があればお尋ねをい

ただければと思います。

特に豊田小学校については、もう今年の3月末で、閉校式典の日取りも決定させていただいているところですが、教育長、順調というか大きな課題もなくということによろしいですね。

▶ 村上教育長

はい。昨年豊田小学校の閉校記念行事を行い地域の人たちとの交流も進み、私も参加させていただいて、最後のバルーンリリースの頃になりましたら地域の皆様が寄ってきてくださって、こういう形で地域も賛成して皆集まってきているんだという話を伺ったし、地域の人たちも新しい学校について希望を述べていた方もいらっしゃったので、今のところ円滑に進んでるんじゃないかなと。地域、学校とすべてが新しい方向に向かっているのではと感じました。順調に進んでいると思います。

▶ 齋藤市長

豊田小学校については、豊田っ子ふれあいスクールという放課後子ども教室を地域の皆様に運営をしていただくなど、まさに地域の方に支えられてここまで来た学校なのかなあというふうに思います。

ただ児童数の近年減少が著しいものがありまして、3月末をもって統合となりました。特に豊田小学校を優先した理由といたしましては、一部学年について複式学級であるという、小規模校よりもさらに小さい過小規模校というような位置付けをさせていただいておりましたけれども、これらのことによりまして、できるだけ早くというようなことで、地域の皆様方のご理解をいただきながら、今年の3月末に統合とさせていただきます。

続きまして、川崎小学校、そして泉中学校につきましては、来年の3月末をもってそれぞれ統合というような方針を出させていただいて、地元説明会等につきましても終了をしております。これらにつきまして、特に川崎小学校につきましては、交流事業等につきましても実施をさせていただいています。

また泉中学校につきましては、保護者説明会の中で、小学校と違って中学校につきましては中学校3年目に受験または就職という人生の大きな岐路を迎えるわけですのでございますけれども、そのときに学校が変わるといふのはいかなものかというようなことを懸念されるお声を多数頂戴いたしました。

そのようなことを踏まえて、保護者の方々もいろいろお話いただいたと思うのですが、全員が、本年につきましては、矢板中学校に一足早く入学されているような状況でございます。

また教育長にお聞きしますが、川崎小学校、泉中学校についても進捗状況は順調だということのように申し上げてよろしいですか。

▶ 村上教育長

はい。川崎小学校については、矢板小学校との交流事業が進んでおりまして、川崎小の保護者も望んでおりまして、計画を立ててどんどん進んでいこうかと考えています。既に統合に対する気持ちが子どもたちも保護者も高まってきていると感じるので、円滑に進むと思われます。

泉中学校については、中学1年生については、今年度すでに全員が矢板中学校に進学していますし、矢板中学校での状況も自然に溶け込んでいって、泉小学校から来たというトラブルや違和感はないと校長から聞いており、円滑に進んでいるのではと思います。

来年度についても、調査の段階ではありますけれども、全員が矢板中学校に入学したいという希望を出しているということです。これについての矢板中学校の受入体制もしっかりしていますので大丈夫かと思えます。

泉中学校については、1学年の体制にはなってしまいますが、今までの特色である福祉活動などいろいろな面で泉中学校の特色を3年生が最後引き継いだ形でやってきておりまして、卒業して泉中学校は閉校になりますが、これについても理解がされているかなと思っております。

▶ 齋藤市長

順調ということですが、市長部局にとってみますと、一つ誤算があったのは泉中学校についてでございますが、スクールバスの利用者が思ったほどより少ないということがあります。

これはもともと保護者説明会でご要望をいただいて、急遽、国交省の方に届け出等をして、10月、下半期から、スクールバスを泉地区の方に回したわけですが、18名全員がこの資料記載のとおり矢板中学校へ入学を希望していたと。乗車希望は10名ということで、思ったより少ないという印象であり、現在の利用者は5名という状況でございます。矢板地区と泉地区は、生活経済圏が一体化してのではないかなあという印象を持ちました。矢板中学校は中心市街地の中でも北側にございますので、そういったこともあるのかなというところがございます。引き続き必要な交通手段は確保しながら、矢板中学校への進学ということについては促していきたいと考えております。

では委員の方から、まず第1期豊田小学校、川崎小学校、泉中学校についてはどうでしょうか、何か疑問点がありますでしょうか。

▶ 齋藤委員

疑問点ではないですが、定例会等で村上教育長からいろいろ情報をいただきました。齋藤市長をはじめ、教育長、教育委員会事務局の方々がきめ細かに地域の方々、あるいは保護者の方々に、説明を丁寧にしたためだというふうに思います。今のところは、進捗状況は予定どおりなのではないかなというふうに思っています。順調に最終まで行けばいいのかなと思います。皆さんありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

▶ 齋藤市長

宮本委員はどうでしょうか。矢板小学校や矢板中学校は受け入れる側という形になりますが、何かお気づきの点があれば。

▶ 宮本委員

小学校についてはですね、もう随分前の話になりますけれども、私も青年会議所活動等でいろいろと児童の皆さんをお誘いするような活動を毎年のように企画しておりましたので、いろいろな学校を毎年のようにお願いしに伺っておりました。そうしますと、それぞれの小学校の校風というか雰囲気というか、それを毎年感じておりました。

そういった中で、日新小学校や上伊佐野小学校、長井小学校、西小学校と学校が減っていく。大変寂しい限りですけれども、これはもう児童数の推移にしたがって致し方ないことかなど。

一定の規模を備えた中で、この形に教育の環境が変わるという意味では、やはり必要となることかなと思います。現実的に生徒数が減ってきておりますので、それに合わせた環境づくりが必要かなと気がしております。

▶ 齋藤市長

他にご意見がなければ、第2期についてでございますけれども、片岡地区の小学校、さらには、統合を踏まえた上での小中一貫教育体制の確立ということが第2期に盛り込まれているところでございます。

このことにつきましても、市といたしましては、昨年10月に地元説明会を開催させていただきました。その上で、本年度につきましては、まず10月30日に第1回目となる保護者説明会を開催させていただき、その内容を踏まえて、昨年12月には、2回目となります地元説明会を開催させていただいたところでございます。

片岡地区小学校統合というふうに一括りで申し上げますけれども、これは令和10年の4月に、乙畑小学校は片岡小学校、安沢小学校のうち中地区につきましては東小学校、これは安沢小学校の中地区の中学校の進学先は以前から矢板中学校となっておりますけれども、それと揃えるという意味合いもございます。一方、安沢地区については片岡小学校に統合するというような方針をお示ししているところでございます。

令和10年4月に小学校を統合することに並行して、統合した上で、小中一貫教育の形については、令和14年度までに体制を確立していくということで、内部での検討も始めさせていただきましたが、いずれは、保護者の皆さん、地域住民の皆さんのご意見もお聞かせいただければなあと思っております。

第1期計画は過小規模校である豊田小学校をはじめ小規模校をできるだけ早くというようなことで、ちょっと急ぎすぎだというようなご指摘をいただきましたが、第2期計画はまだ

保護者の皆さんもリアリティというか現実味がないというような印象でもあり、保護者説明会の出席者の方も決して多くない状況でございました。

岡委員においては、受け止め方はどうでしょうか。

▶ 岡委員

やはり最初統合となったときには、保護者の中でワーツといろいろ騒いだ状況はありましたけれど、統合はいつからなのという話になると、第2期だからまだまだ先で現在の保護者には関係のない話ということで、分譲地のあたりに引っ越してきた人たちがその当事者になっていくので、そういった中でそうした状況になっているのかなと思います。今在学している保護者の方には関係のない話になってくるのであまり話題にもならないという状況であります。いろいろ質問があったとしても、まだしっかりと決まったわけでもなく、現場としてはどこの小学校へどうやって行くのか細かいところを知りたいところではありますが、そこもまだ決まってははいない。

統合することに関して、保護者の方は賛成されている方が多いとは思いますが。最初に地区で説明会があった時は実験台なのかといった意見もありましたが、今はそうでもないのかなといったところかと思えます。

豊田小も初めは地域の方が反対されていたかと思うが、どういったところで徐々に納得されていったのかなと。もちろん質問に答えて、説明していく中で皆さんが納得されて今回の閉校行事へとなくなっていったのかなと思います。

片岡はまだまだ先なので現役の地域の方たちも4年後では関係ないかなというところもあるかと思う。

▶ 齋藤市長

西小学校についても、豊田小と同じぐらいの期間しかない中で、統合の話し合いをさせていただきました。西小学校と豊田小学校については過小規模校ということで複式学級化されており、なにがなんでも統合しなければという思いでありました。

今日の資料にもあったかと思いますが、乙畑小学校については、つつじが丘ニュータウンの分譲が好調であったりして、むしろ片岡小学校と肩を並べるぐらいに児童数が増えているという中でありますと、なかなか複雑な思いがあるのかなと思います。

片岡地区の話になりますと、教室のキャパシティーなどを考えると、やはりまずは片岡小学校に集めて、その上で、施設一体型または違う形になるのか、そういったことも含めて施設整備も考えていく必要があるのかなと思います。

また、片岡の学童保育館は大丈夫なのかというお尋ねを昨年の説明会でいただきました。それについてもしっかりと定員の確保についてはやっていきたいと思っています。

▶ 岡委員

ひまわりスクールがあるから、乙畑小に来たという方もつつじが丘の中にいるかと思う。一番は学童というところがネックになるかと思う。

▶ **齋藤市長**

片岡学童保育館は社会福祉法人によって民間の児童館という形で運用していただいておりますけれども、一つの提案として、子ども課、市長部局から申しあげているのは、児童館につきましては、矢板三区にイケポス池田キッズハウス（矢板市子ども未来館）ができましたので、そちらの方の補助の代わりに、片岡児童館のスペースで学童保育をやっていただけるように、それに見合う予算的な支援等もさせていただくことで、まだ先にはなりますが当面は、しっかりと放課後預かりというのはやらせていただければなというふうなことは、申しあげております。

地元説明会でも肯定的なご意見が多かったように感じますが、教育長はどう感じますか。

▶ **村上教育長**

1回目の説明会は小中一貫教育体制についてのご質問が多かったですが、2回目の説明会ではそういった質問はほとんど出なかった。どちらかという、小中一貫についてはもっと先の話と考えている方と、小中一貫は形としては良いのかなというお気持ちの方も増えてきているのかなと思っています。

小学校の統合については各学校の特色があるのでその特色を理解してもらいながら徐々に進めていけるのが理想的なのかと思っておりますので、よく保護者へ説明していきたくと考えています。学校の特色も説明しながら、急激な移動で乙畑小や安沢小が過小規模校にならないようにしていきたい。

今のところは小学校については理解が進んできたのかなと。いつの時期に学校を移動して良いのかなど細かいところの理解をしていただけるようにしていきたいと考えている。小中一貫については、今後も議論していきたいと思っております。

▶ **齋藤市長**

小中一貫については、最近、6・3制というのが少し整理されてきて、義務教育学校の事例が県内でもみられてきたわけです。教育委員の皆様にもお諮りをしながら、こういった形が望ましいのかということについて、いろいろご意見を伺えればなと思っております。

齋藤委員、高校教育の立場からご覧になって、6・3制、小中一貫、施設の一体型などについては、どのようなお考えをお持ちですか。

▶ **齋藤委員**

私は、矢板中学校で3年間教員も務めたことがあります。小学校から中学校へ進学してくると、数学と英語等がかなりのギャップがあるんじゃないかなというふうに思います。そ

れを埋めるというようなことを考えますと、6・3制を一体化するような小中一貫型の小学校・中学校は、良いのではないかと思います。

矢板市はタブレットでも報道されておりますけれども、教育市として、ぜひ他の市町村に負けることなく、早めにいろいろやって、矢板市に見習おうじゃないかというような、矢板市の教育行政にさせていただければ、私たちも矢板市に対して誇りを持っていろいろ行動できるのかなと思います。ぜひ、これらをご検討いただければと思います。そのためにはやはり、予算などに難しいところもあるかとは思いますが、絶対に失敗をしないというような担保をつけてですね、地域住民等に諮ることが必要かなというふうに思います。

▶ 齋藤市長

予算というお話をされましたけれども、しっかりと市長部局としてもその確保に努めていきたいなと思います。

第1期計画とも多少関連いたしますが、今のところは矢板市の方で、小中学校の特に施設整備、最優先課題として考えておりますのは、東小学校の長寿命化改修でございます。

東小学校につきましては、昭和50年開校以降、校舎、体育館が現在に至るまで使われており、改修や増築が繰り返されて参りました。

豊田小学校や川崎小学校の一部、さらに令和10年4月には、この第2期計画の中にも位置付けがございます安沢小学校の中地区が東小学校に統合される。その機会を捉えて、現在の計画でございますが、令和10年4月に東小学校の校舎と体育館を長寿命化改修する。事業規模は約30億円というようなものでございますが、施設改修の都合等もございまして、この令和10年4月というような時期を設定させていただいたということでございます。

それ以外につきましても、恒久的な投資も含めてですね、適時適切に必要な予算を講じていきたいと考えております。

それでは、泉小学校についてでございます。コミュニティ・スクール化により存続というような方針を、昨年度末お示しをさせていただきました。

このことにつきましては、教育委員会からの建議では、このコミュニティ・スクール化により存続というようなご意見を頂戴しておりましたが、その後市長部局で、適正規模・適正配置計画の最終的な計画を策定する中で、泉地区においてのコミュニティ・スクール化は困難であるというようなことを判断させていただいて、矢板小学校に統合というような方針を出したところでございます。

しかし保護者説明会、または地元説明会等を通じて、コミュニティ・スクール化による存続というような方針をお示したところでございます。

地元の池田委員には大変ご心配をおかけいたしましたけれども、現在の進捗状況についてどのようなお考えがあるか、少しお話いただけないかと思います。

▶ 池田委員

今年度スタートして、コロナ禍ということで大きな要因にはなっただと思うんですが、なかなかやっぱり地域の人たちがその下支えをするために集まるというのが難しいというような中で、10月ぐらいから本格的に皆さんから地域でやれることをやろうよというふうに意見が出てきまして、コミュニティ・スクールの将来のビジョンにはまだほど遠いとは思いますが、環境整備等については非常に積極的に、皆さん集まってやっています。

それとともに学習支援に関して、どれくらい力が入られるかなといったところが今、大きな課題があると同時に、どこの学校も統廃合の大きな要因としては、全体数、学童数をどれくらい確保できるのか。そういう意味では、小中一貫もそうですし、コミュニティ・スクールも、先ほど斎藤委員がおっしゃったように、矢板市の教育の先駆けとして、メニュー化する、教育の形態というか、多様化というようなものを目指す中で、その一つとしてコミュニティ・スクールという形や小中一貫教育という形を、市民全体に提示し、PRすることで、選択肢を入学する時点から選べるように、少し柔軟に対応できるような形にしていかないと、なかなかそれぞれの学校でのコミュニティ・スクールとしての特色を持つというところまでは、いけないのかなと。

最終的には、各学校がそういうような要素を持つと非常に良いかなと思いますが、泉小学校としてそのコミュニティ・スクールを支えていき、存続していくのには、積極的にアピールして、保護者の方たちがそこを選択できるような形が生徒数を維持することには必要なことなので、泉の特徴としては、通学距離の問題もありますので、その部分を考えてスクールバスを有効に使っていただいて、中学生に関しても、今は一旦小学校と一緒に乗ってきて、そこから行くということになっているので、やはり長井地区の人たちなどは、即自転車で行った方が早いということでバスの利用がなかなか難しい。親が直接送った方が早いということもある。ただ、このコミュニティ・スクールに関して、これから、来年度もう少し充実していくような形になっていくかと思っています。

▶ 齋藤市長

矢板市内全域からというようなことで、最終的には、泉小学校が矢板市内唯一の1学年1クラスの小規模になるという中で、もうすでに表明はしていると思いますが、いわゆる小規模特認校の制度は泉小学校においても引き続き、コミュニティ・スクール化された後もということですから、矢板市内全域が学区ということで、保護者の方、児童本人が希望すれば、泉小学校に就学できるというようなことになりますので、今現在、泉小学校学区外から、泉小学校へ通っているお子さんがいらっしゃると思いますが、必要に応じてPRしていければなど。

▶ 細川教育部長

泉小学校学区外からは5人です。

▶ 池田委員

コミュニティ・スクールということだけでなく、小中一貫も含めて、そうしたメニューがありますよというような形のPRの仕方をしてほしい。

▶ 齋藤市長

泉には、コミュニティ・スクール下の小規模校泉があって、片岡はどういう形になるか詳細はわからないですけど、小中一貫がある。そういった形でのPRが必要ということかと思えます。

▶ 池田委員

それで、IT化もどんどん進めていますといった形で、教育として、市としてやっている。地方としてのPRになるかもしれませんが、保護者の人たちができるだけ目にする事ができるような戦略がないと、なかなかやはり児童数の確保は難しい。あるいは、今そういう学校に向いているお子さんが行けるような形が理想なので、ぜひ市としてもやっていただきたい。

また、コミュニティ・スクールとしては、今度は学習支援に力を入れていけるかなと思います。

▶ 齋藤市長

来年度1年間ございますので。来年度限りになります。コミュニティ・スクールのコーディネーターも引き続き配置をさせていただき、今年度はやはりコロナ禍の中でなかなか活動してもらった機会もなかった状況で、泉小学校に非常勤の職員を配置させていただくような支援をさせていただければと思います。

▶ 池田委員

毎月コミュニティ・スクール便りが来ますので、公民館便りなどの広報と一緒に各戸配布がありますので、そういう意味では参加しやすくなっています。

▶ 齋藤市長

泉地区は結構公民館活動が盛んで、基盤がしっかりしているのかなと。

▶ 池田委員

コロナ禍ではありましたが、チャレンジスクールを公民館活動の中で行っていたので、そういった基盤はあります。

▶ 齋藤市長

矢板公民館はエリアが広いため活動が薄い部分もあるかと思う。比較的人口、世帯数が少ないからできる取組みでもあるのかなと思います。

生涯学習課長、生涯学習施策の推進にあたって、このコミュニティ・スクールの位置付けが非常に重要なことだと思いますが、生涯学習課として期待することやお気づきの点があれば、ご発言ください。

▶ 高久生涯学習課長

地域学校協働活動ということで、生涯学習課に本部を設置していきまして、地域と学校がお互い支援できるような場を設けていますので、環境が変わっていく中で、学校だけでなく、子供たちを育てるということで地域の人たちが、学校に参画していただくと同時に子供たちを育てていくという取組みをしていかなければいけないのかなと、生涯学習をする上でも必要なことかと思っています。

▶ 齋藤市長

最後に、市長部局から、教育委員の皆様方にご意見なり何かご所見があればお聞かせいただきたいと思いますが、小中学校の校舎、体育館など施設の跡地利用についてでございます。

豊田小学校につきましては、今年の4月から利用されなくなります。川崎小学校については来年の4月から、また泉中学校も同様でございます。そういった中で、小中学校は地域社会のシンボルというような位置付けもございましたけれども、地域の皆様のご意見を伺いながらですね、利活用を進めていきたいなというふうに考えております。

一足早く閉校した西小学校につきましては、昨年10月からでございますが、総合政策課の所管でございましたけれども、さくら市のIT企業が研究開発センターを作り、ドローンの練習場にも使うようなことで、西小学校は利活用されています。

豊田小学校についても、いずれ検討しながらそういった利活用が図られるのかなと思います。

泉中学校については、泉公民館が老朽化している中で、地域の社会福祉等の拠点になるような施設になるよう、何か知恵を出していけないかなというふうに考えてございます。

これらについて何かご提案やご注文があれば、お聞かせいただければと思います。

統合して学校として使われなくなると市長部局でお預かりしており、全国各地で廃校の活用というようなことが話題になっているかと思いますが、何かこうしたらどうかといったものはございますでしょうか。

▶ 池田委員

少し地域的に集まれるという場合は、集まれる方は限られるかもしれませんが、学校まではいかないけれども、ちょっと集まれるような施設として、片岡以外にもあればなと思います。

▶ 齋藤市長

片岡ということは、チャレンジハウスのような身近なものですか。

▶ 池田委員

はい。教育上どういう位置付けになるかわからないですが。

▶ 齋藤市長

自力で通学がなかなかできないという声を聴いているところですけども。

▶ 池田委員

教育施設のもう少し前の段階のもので、フリースクールのようなもので送迎付きで、自由に片岡と泉で行き来できるようなものが一つぐらいあってもよいのかなど。

▶ 齋藤市長

ネックは送迎かと。やはり小中学生で特に小学生となると、なおさら1人で行けるかという問題があります。

▶ 岡委員

例えば片岡学童でスペースを借りるとか、長時間預かる場合、広いところでないと遊べないとなれば、学校の施設を何時から何時まで利用するなど、誰かがやってくれるのが理想的かと思う。それも送迎ありきにはなるのかと思います。

▶ 齋藤市長

学童について申し上げますと、この2年ぐらいのコロナ禍の中で、まずソーシャルディスタンスを子供たちもとらなくてはならない。結果として、今まで以上に子供の数が増えるし、もっと余裕を持って、そういったスペースを確保しなくてはいけないということもありまして、放課後預かりのあり方については、抜本的に見直すタイミングなのかもしれません。

▶ 岡委員

カフェとか。那須のところでは、廃校を使って、併せて精神障害の方の作業所のような形にして、うまく旧校舎を使いながら観光地のようになっていて、ステンドグラスなどいろいろ作ったりしている。

▶ 齋藤市長

泉地区でいうと長井小学校や上伊佐野小学校、校舎はないですが日新小学校、今の活用の

仕方が十分かといった話もありました。そうしたこともトータルで教育委員の皆様から市長部局へ注文を付けていただくというの、この会議の目的だったりするのかなというふうに思います。また来年の今頃お聞きするかもしれないので、良いアイデアがあれば考えていただければと思います。

▶ **岡委員**

インターネットなどで大きくアピールして、若い子、例えばユーチューバーなどが使う場所を求めているので、その場所として安く貸し出すのもよいのかなと。

▶ **齋藤市長**

そうした場合もやはり送迎、交通の便だと思います。大体交通が便利なところに廃校はないと思いますので、難しいところかなと思います。

▶ **齋藤委員**

黒羽の蜂須小学校はすごくカフェみたいに素敵で、うまくいってるようです。

▶ **岡委員**

そこも精神障害の方の作業所のようになっています。

▶ **齋藤委員**

民間に貸し出すというのは、需要はあるものなのでしょうか。

▶ **齋藤市長**

蜂須小学校については聞いたところでは、旧黒羽になりますが、大田原市はそれほどお金を出さずに、社会福祉法人側がやってくれたと聞きました。

ニーズとしてはどうなのかといったところはあると思いますが、ただ蜂須小学校は私も行ったことがありますけれど、風情があっていい雰囲気でありました。私は西小学校卒業ですが、西小学校はあぁいった感じなので、少し色を塗り直してもらって、IT企業の研修所として、校庭や体育館でドローン飛ばすなどの使い方がちょうどよいのかなと思います。

宮本委員はいかがですか。

▶ **宮本委員**

市内には高校が三つあるので、部活動などの高校の活動もかなり手狭になっているところもあると思います。グラウンドや体育館で連携できればと思います。

▶ **齋藤市長**

ありがとうございました。

それでは議題の（２）のその他でございますが、（１）小中学校適正規模・適正配置計画以外で委員の皆様から何かご発言あれば、この機会にご発言いただければと思いますがどうでしょうか。

【発言なし】

▶ **齋藤市長**

それでは、進行を事務局へ戻したいと思います。よろしくお願いいたします。

4 閉会（17：06）

▶ **高橋総合政策部長**

委員の皆様には、多くの意見をいただきましてありがとうございました。この会議結果につきましては、会議録を作成いたしまして、後日矢板市ホームページに掲載しますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和3年度矢板市総合教育会議を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。